

平成 26 年度 小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
第 1 回 アドバイザー会議 議事概要

平成 26 年 9 月 29 日（月）10:00～12:50
（内地）小笠原村東京連絡事務所会議室
（現地）小笠原村情報センター

1. 傘山、躑躅山ルートにおけるオガサワラノスリのモニタリング結果について
 - ・今回は特段異常行動が見られなかったが、今後もモニタリングを継続してもらいたい。

2. 小笠原諸島兄島グリーンアノール対応について
 - ・柵の設置のために伐採・剪定した植生について、今後の再剪定などメンテナンスの方針を決めておく必要があるのではないか。また、外来植生が再侵入していれば、巡視時に抜くなど対応してほしい。
 - ・グリーンアノールWGで議論すべきことだが、オガサワラトカゲなどの固有生物が多数捕殺されていることについて、アノール駆除のためにやむを得ず行っているという根拠を明確にすべきではないか。
 - ・囲い込み柵やCラインの事前のルート選定等について、他機関と連携して対応願いたい。

3. 母島西浦地域におけるモデルプロジェクトについて
 - ・アカギの駆除について、大木の駆除は周辺環境への影響が大きいが、本プロジェクトで行うような小規模な駆除ならば問題ないとする。
 - ・モニタリングの結果については、当会議に報告をお願いします。

4. 聳島指定ルートについて
 - ・ルートの利用に関するルールは、保全センターが観光協会と協議して作成したことを明確にすべき。
 - ・事業者登録のメリット・デメリットなど、指定業者登録の要件を外すかどうかを判断するための情報を次回の会議までに整理してもらいたい。今回はペンディングとする。
 - ・渡航条件と陸域利用の関係について、どこまでが陸域利用でこのルールの適用になるのか、また、外来種の侵入防止上も海岸利用（波打ち際）のルールを明確化すべきではないか。これは聳島だけの問題ではなく他の島についても同様である。

5. 公益的機能維持増進協定の取組みについて（報告）
 - ・今後も、父島・母島等において、本協定制度による民有地での外来植物駆除を進めてほしい。

6. 平成 26 年度事業概要について

- ・母島施設の外来種処理について、外来生物等の冷凍処理の基準（-20℃で3時間程度）は対象種によって処理に必要な時間が異なり、さらにザック内など断熱されているような条件でも異なるのではないか。
- ・外来種処理の方法については、南硫黄島調査時の外来種対策を参考にしたり、専門家への意見照会を行うなど、さらに検討が必要ではないか。
- ・木造の施設では十分な機密性が確保できないなど、当初予定しているような外来種処理ができないのではないか。
- ・母島施設において外来種対策としてできることとできないことや今後対応可能な改善策を整理し、利用マニュアルを作成してはどうか。
- ・母島施設の来訪者向けにパンフレットなどを作成してはどうか。
- ・小笠原全体の外来種対策の中で、父島、母島の施設の役割分担を考えていく必要がある。

7. 活用案件について

① 父島都道災害防除工事

- ・環境影響評価の報告書に「・・・により影響はない」と記載されている場合があるが、必ずしも断言するべきではなく、今後書き方を考えるべき。

② プラナリア対策

（特段意見等はなかった。）

8. その他

- ・今後のスケジュールについて、第1回保全管理委員会を10月27日に開催すること、第2回アドバイザー会議を平成27年2月上・中旬頃に開催予定であることを説明。